男は、 で、 むかし、 宿屋に泊まりました。 宿屋の主に、 人が故郷の町まであと三マイルの所まで帰って来ました。 その宿屋で、 男は、 ゆでたまごを十個求めて食べました。 もう夜に つぎの なって 朝 た

た。 宿屋を出ました。 「すまないが、 今、 ところが、 手元にお金がない 家に帰り着くと、 んだ。 家に着いたら、 主にお金を送るのをすっかりわすれてしまいまし たまごの代金を送ります」とい って、

した。 一年たったとき、 男は、 宿屋の主から、 手紙を受けとりました。 手紙に は、 こう書い てあ ŋ

ずの 四月目も五月目も同じことです。十二カ月たった今では、ょっき いっぺき 二十個のたまごをかえさせます。二十かける二十でめんどり四百羽です。三月目、わたしは四百二十個のたまごをかえさせます。二十かける二十でめんどり四百羽です。三月目、わたしは四百 支払い願わなければなりません」 羽のめんどりにそれぞれ二十のたまごをかえさせます。 羽いたので、二十羽になったはずです。二月目にわたしは、その二十羽のめんどりに、 せたとしますと、 として、 「去年あなたがわたしからお求めになりながら、 めんどりは、 金貨百五十枚をお送りください。 ひと月たてば十羽のめんどりが手に入ります。 四千兆羽を超えます。値段はぜんぶで金貨百五十枚にのぼります。 もしわたしが、 支払いをなさらなかったゆでたまご十個 すると、二十かける四百で八千羽です。 あの十個のたまごをめんどりにかえさ あのたまごからかえすことのできたは あのときうちにはめんどりが十 ぜひともお それぞれ \mathcal{O}

男は、 こまりはてて、 ある学者の所に出かけて行って、 この話をしました。 学者

知しました。 「わしに金貨五枚くれるなら、 この件をかたづけてあげよう」とい いました。 男はよろこんで承

学者は、男に代わって、宿屋の主にこんな手紙を書きました。

「あした、 そちらにうかが つて、 お手紙の返事をお手渡しいたします」

ところが、 次 の日、 学者は宿屋に行きませんでした。 宿屋の主は

は書きました。 「お待ちしてい たのに、 どうしていらっしゃらなかったのですか」と書いてよこしました。

すぐに土を入れないとくさってしまいますので」 えんどう豆をまかなければならないのです。 「きわめていそがしか ったもので、 どうぞお許しください。 ゆでえんどう豆をまいてしまってからうかがいます。 と申しますの は、 大ます十 杯 \mathcal{O} で

宿屋の主はこれを読むと、次のように書きました。

ことですよ。ゆでえんどう豆が実を結ぶことなどありませんからね」 「おまきになったえんどう豆がゆでてあったなら、いつか芽が出ると思うなんて、とんでもない

学者はこれを読むと、こう返事しました。

「なるほど、おっしゃるとおりです。それなら、ゆでたまごからめんどりがかえることもありま

せんね」

おしまい

村上郁再話

資料『世界の民話8中近東』鈴木満訳/ぎょうせい